

学校法人内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 269 号
(6 月)
2024

求められる「立ち直る力」

学校法人内丸学園 盛岡幼稚園 理事長 坂本 洋

新緑の季節を迎え、園庭の子ども達の伸び伸びと活発な遊びを目にし、安堵の新学期スタート。5月連休前には、県庁前広場で子どもの日になむ「こいのぼり掲揚」を岩手県知事さんと年長児と一緒に参加させて頂くセレモニーがありました。次代を担う子ども達への健やかな育ちの期待感が強い行事です。

さて最近、令和時代を生きる子ども達に親が望む、育って欲しい子どもの姿アンケート調査結果を知りました。結果の一部を紹介しますが、第一位は、「失敗しても立ち直れて成長できる子」46%、第二位は、「自分の力で道を切り開ける子」を望む39%で、両方合わせ

ると9割に近い親の切なる願いを垣間見ることができ、色々と考えさせられております。

通常的には、思いやりのある子ども、お友達が多い子ども、自分に自信が持てる子ども等が定番だと思っておりましたが、令和の時代に生きる子どもへの期待感がなかなか厳しい力の育ちが求められているようです。

近年の子ども達をめぐる環境課題は、いじめや虐待そして不登校等々が改善されず微増する傾向もあり、親の願いとしてそれに立ち向い乗り切る子どもの育ちが喫緊の課題かもしれません。

「立ち直る力を持つ子ども」ですが、回復力・復元力(レジリエンス)

のあることを意味しますが、心理学的には精神的回復力と言われます。その高い人は、ストレスやトラブルに対して落ち込まず前向きにチャレンジすることができると言われております。

自分の力で道を切り開く子ども像も同様ですが、立ち直る力を育てることは現代未来社会に生きる必須の重要課題でしょう。

今まで以上に意識的に日常の保育指導計画の中で「立ち直る力」を重視していくために、幼児教育現場でどのように取り組んでいけばよいか。

私たち盛岡幼稚園では、愛着心・基本的信頼感の絆の育ちを中心として、非認知能力と言われる、失敗を恐れず再度挑戦し達成する経験・自己効力感の育ちを大事にして、粘り強さや幼児なりに自分の感情をコントロールする自制力や忍耐力、そしてお友達と協力する社会性、コミュニケーションの能力育成を重要基本目標として、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を具体的指導目標として日常の保育活動に掲げ、実践しております。

幼児期におけるストレスやトラブルに対して落ち込まず前向きにチャレンジする力の育ちは、一段と踏み込んだ高度な大変な目標です。その土台としての愛着心の強化(アタッチメント)及び非認知能力の養成がその対応として最重要だと考えます。

今一度「立ち直る力を持つ子ども」を現代社会の生きる力の重要課題として、幼児保育者として共有し研修強化してまいりたいと思います。



『こいのぼり掲揚式』

就任の挨拶
〜新園長として〜

盛岡幼稚園の教育・保育について

園長 津川 哲二

この 4 月から盛岡幼稚園の園長を仰せつかりました。小学校勤務が長く、幼稚園での勤務は初めてとなります。小学校では幼稚園・保育園の卒園児を受け入れる側としての在り方を考えてきましたが、今後は乳幼児期の子どもの達教育・保育の在り方と同時に成長した子ども達を円滑に小学校に繋げていくことを検討する立場となりました。

今回、着任するに当たり、創立 117 年目を迎え、歴史と伝統を誇る盛岡幼稚園の沿革に目を通してみました。1904 (明治 37) 年、当時、盛岡市に保育所も幼稚園も全くなかった時代に幼児教育の重要性を説き盛岡幼稚園の前身である盛岡保育会を設立した長岡栄子さんのこと。1907 (明治 40) 年には宣教師夫人のミセス・タッピング氏が盛岡保育会を引継ぎ私立盛岡幼稚園をスタートさせ、その後岩手県第 1 号の幼稚園として認可されたこと。時代を経て平成に移り、保

護者、子ども達を取り巻く環境が大きく変わる中で 2007 (平成 19) 年には岩手県第 1 号の認定こども園、その後 2015 (平成 27) 年からは現在の幼保連携型認定こども園となっていくこと等が記されていきました。幼児教育の研究の面でも盛岡開催の東北地区私立幼稚園研修大会では公開園として大会参加者に指導場面を公開するなど意欲的です。

いつの時代も進取の気概をもって子ども達の教育や保育にあたっていることが見て取れます。改めて保護者や同窓生の思いを受け止めながら園の経営にあたる責務の重さを感じているところです。

今年度の盛岡幼稚園が進める

教育・保育の重点

社会の在り様は急激に変化し、予測が難しい時代となっています。今日、将来を担う子ども達には知的な認知能力の育成がとて大事なになります。それと同時に予測が付きにくい将来

の変化を柔軟に受けとめられる「学びに向かうとする力・人間性」を育む非認知能力の育成の重要性も謳われています。幼児教育の要であり非認知能力の育成に深い関連をもつ「遊びが学び」を今年度も充実させるべく取り組んでいきます。

① 遊びが学びになるような教育・保育の充実をさらに図ります

幼児期は「遊びが学び」と言われ、遊びが重視され、当園もその流れを尊重し遊びを重視した教育・保育を行っていきます。遊びが学びにつながる上で教育・保育要領の 5 領域に加え、「幼児期の終わりまで育ってほしい 10 の姿」や小学校との円滑な接続をめざす架け橋プログラム等を意識した教育・保育に努めていきます。

② 先生方の園内研修の一環として教育・保育活動の相互参観研修を勧めます

「遊びが深まる環境構成と、育ちの連続性」という研修テーマに沿った教育保育活動をするため、お互いの教育・保育活動を見合い話し合い、お互いの指導力を向上の糧にしていきます。

③ 0 歳児からの園児の発達や多様な園児の特性の一層の理解と支援に努めます

当園の建学の精神の一つである園

児一人一人の主体性並びに個々の発達特性に配慮した活動を展開するために、職員間の情報交流を密にし、適切な対応に努めていきます。

④ 小学校への円滑な接続を図る「架け橋プログラム」を意識した教育・保育に努めます

前述①に関連しますが、小学校への円滑な接続を意識した教育・保育を推進する上では、幼稚園と小学校の生活基盤の違いも考慮しなければなりません。同時に小学校入学に係る園と家庭との情報共有等も図りながら「架け橋プログラム」を推進していくことが肝要と思われます。

⑤ 園だよりやホームページ、教育相談等を通じて家庭との連携や情報提供に努めます

家庭との連携については、園だよりやホームページ(にこにこ園日記・WEB)だより等々を活用しながら園の取り組みの様子や情報等を提供していきます。この活動も含めて保護者の思いを受け止めながら保護者と一緒に協同での教育・保育を推進していきます。認定こども園の役割の一つでもある未就園児の親子教室「トトロハウス」や「子育て相談」も継続していきます。

子どもの遊び・生活から



ワクワクした気持ちで

Aクラス担任 中村真子

園で一番のお兄さん・お姉さんになり、嬉しい気持ちでスタートした4月。新しいペン、絵の具など自分の物が増えたことも嬉しい要因の一つでした。Bクラスの頃から制作が得意でしたが、友だちと試行錯誤しながら考えて作る場面も増え、さらにパワーアップしているように感じます。

年長として、この2カ月様々な行事に参加してきました。「Aクラスになったらできること」を経験してきた子ども達の表情を見ると、だんだんと自信もついてきているようで、頼もしく思います。友だちと一緒に体を動かすことも好きで、園庭やホールではよく鬼ごっこをして遊んでいます。一番最初に鬼決めをするのですが、以前は「おれがやる! わたしがやる!」で、始まる前から揉めていた姿がありました。最近「じゃあ順番でやろう」、「さっきやったから今度はいいよ」など相手のことを

を考えて譲り合う姿もあります。

そのような優しい言葉、態度で気持ちよく遊ぶことができるAクラスになってほしいなと願っています。

幼稚園生活最後の一年間が、思い出に残るように支えていきたいと思っています。Aクラスは、これからワクワクするような行事がたくさん待っています。何でも全力で楽しむことができる子ども達と、一日一日を大切に過ごしていけたら良いなと思います。

遊びの面白さ

Bクラス担任 石田雪乃

新しい仲間も入り、二十八名でスタートした新学期。はりきっていた四月から少しずつ気持ちも落ち着き、今は好きな遊びをのんびり楽しんだり、友だちと体を動かして遊んだりすることで頭がいっぱいの子ども達です。

園庭に出ると、「こおりおにするひと〜!」と言った子の周りにすぐ五人程集まり、鬼決めが始まり

ます。それぞれの足を一本ずつ寄せ合つて、「おにきめ、おにきめ、だれがおにになるかな?」の声に合わせて指や視線を動かしています。また、部屋で人気のすごろくでは、「ろくでろ、ろくでろ、じゃんけんぽん!」と呪文を唱えてサイコロを振り、勝ったり負けたりする楽しさも感じています。

いつの間にか当たり前になっていた遊び方や台詞があり、さりげなく「誰が決めたんだろうね」と聞くと、「だってAさんが言ってたから!」、「〇〇くんも言ってたよ」などと笑顔で教えてくれました。遊びの中で友だちの存在は大きいですが、今までの園生活の中で現A

クラスから刺激をもらいながら過ごしてきたみんな。だからこそ、そこから遊びのヒントを得て、どんどん面白さを見つけているのだと改めて気づきました。私達も日々の遊びの中に一人一人の成長があると信じ、見守り支えながら、子ども達とともにBクラスを盛り上げていこうと思います。

友だちと一緒に

C1クラス担任 村松千尋

新しいクラス、新しい先生、新しい友だち…たくさんの環境の変化に、ドキドキしながら始まった4月。最初は涙が出る日もありました。が、今では「おはようございます!」と元気に登園する子ども達に、日々の成長を感じています。

朝の身支度も、少しずつ自分できるようになってきました。子ども達の毎日の楽しみは、おはようブツクにシールを貼ること。数種類あるシールの中から「今日はどれがいいかな?」と日替わりで貼る派が、「絶対にこれ!」の毎日同じ派があり、シールの貼り方や選び方にも個性が表れるものだと、新たな発見でし



『おにきめ、おにきめ・・・』

た。友だちと同じシールを貼る子もいて、「一緒だね」と顔を見合わせる姿に、心が通い合う様子や子ども同士の間を感じ、私も嬉しくなります。

遊びも「友だちと一緒に」が増えてきて、最近はおままごとやプリンセスごっこなども楽しめるようになってきました。その中でも特に病院ごっこが盛り上がり、積み木の救急車で病人役の子を迎えに行ったり、手術をしたり：「次は私がお医者さんね」「いいよ」など、子ども達なりにやり取りをして、遊びを広げているところです。時には思いがぶつかり合う時もありますが、担任が仲立ちしながら相



『病院ごっこ』

手の気持ちを知る機会も大切にしていきたいと思っています。「友だちっていいな」と思える楽しい一年になるように、と願っています。

毎日の積み重ねから…

C2クラス担任 齋藤由紀乃

4月、それぞれの環境から集まり、幼稚園生活がスタートしました。エプロンやバッチをつけて嬉しい反面、新しい環境への不安やうまく出来ない思いから、泣いたり戸惑ったりと、その子なりに表現する毎日でした。その姿を受け止めながら、「幼稚園が楽しい！明日も来たい！」と少しでも思えるように関わってきました。今では、自分で朝の準備を進めたり、好きな遊びを見つけ、元気に遊んでいます。

ある日の給食時間、いつも通りに給食のお祈りをして食べ始めた頃。AクラスやBクラスから聞こえてくる給食の讃美歌に気がついた子ども達。「これは何の歌？」「黄色バッチは歌わないの？」と聞いてきました。4月は給食の時間になると、お家の人を思い出して涙が出たり、初めての生活の流れに疲れて眠くなったり、食べることに精一杯だった

たので気がつかなかったようです。

そんな子ども達にも食事をしながら他のクラスの音や声に耳を澄ませて、「美味しいね」と話すくらい余裕が出てきている姿に2か月の心の成長の早さに驚きながらも嬉しく感じました。

毎日の生活や遊びの積み重ねから、3歳児なりに様々なことに気がついて興味をもちながら学んでいる大切さを改めて感じました。子ども達の「やってみたい！」の気持ちを大切に、遊びや行事等を経験しながら子ども達の育ちを見守っていききたいと思います。

元氣いっぱいあそぼうね！

いちごクラス担任 齋藤綾

季節が進むとともにいちごクラスでの生活に少しずつ慣れてきた子どもたち。「せんせい、いっしょに」と遊びに誘ったり、手伝ってほしい気持ちを伝えたりと私たちを頼りにしてくれるようになったことを嬉しく感じています。

いろいろなことに興味を示すこの時期。お医者さんや警察官、おにやおばけに変身して遊ぶことが子どもたちのお気に入りです。お



『ダンゴムシいるかな？』

友だちがしていることに目を向けられるようになり、遊びの楽しさが次々と伝染していきます。また、戸外遊びでは、アリやダンゴムシなどの小さな生き物探しに夢中！「アリさんいた！」という一声に数人が集まって頭をくつつけながらアリの様子を釘付けになっている姿もかわいらしいです。このように、お友だちとのかかわりも楽しみながら過ごせるように見守っていききたいと思います。

「イヤイヤ」の場面や、思いを言葉にできずに泣き出すこともありましたが、泣いたり笑ったり怒った

り・・・いろいろな気持ちを経験しながら日々少しずつ成長している子どもたちです。

この一年、子どもたちの好奇心や様々な場面での学びを大切にしながら園生活を一緒に楽しんでいきたいと思っています。

たくさん遊ぼうね！

つばみクラス担任 林崎裕子

新入園児九名を加えて、十八名の子どもたちが泣いたり、笑ったりしながら、にぎやかに過ごしています。四月当初は不安でいっぱいだった子どもたちもこの頃は、好きな遊びを見つけて保育者と一緒に遊びを楽しんでいます。

お部屋では、スポンジボールやカラフルな積み木等の手作り遊具を中心に遊んでいます。特に夢中になって遊んでいるのはポットン落としです。指先を上手に使ってケースに落とすしていくことをくり返し楽しんでいきます。たくさん落とせると、自信たっぷりに笑顔を見せてくれます。また、天気の良い日には、散歩や裏庭にも出かけています。砂遊びでは、初めは手で直接触れて感触を楽しんでいる子が多

かったのですが、一緒に遊ぶ保育者の姿を真似て、少しずつスコップや器を使って遊ぶ姿が増えてきました。今では砂を器に入れ、「どうぞ」とやりとりを楽しめるようになってきています。

歩行がしつかりしてきて、周囲への興味も広がってきているように感じます。人見知りをしていた子どもたちが担任以外の保育者にも慣れてきて、笑顔を見せたり、給食を食べさせてもらったり、一緒に遊びを楽しむ姿が増えてきました。不安で泣いていた姿を懐かしく思います。保育者との愛着関係を軸にしながら、これからも、様々な遊びを通して経験を広げていくて欲しいと思います。

安心感の中で...

ふたばクラス担任 瀧山茉保

入園から早くも2か月が経ちました。初めてのお部屋、初めての保育者に緊張して不安な表情で過ごしていた子ども達でしたが、少しずつ慣れていき、「やってほしい！」と要求が出来るようになってきたり、「これがやりたい！」と表情

も豊かに訴えたりすることができるようになってきています。私たちが安心できる存在になってきたのだなと嬉しく思います。

この2か月の間でもずりばいやハイハイ、つかまり立ちがどんどん上手になり、お部屋の中を自由自在に動いています。おもちゃや絵本など気になる物に近づいていき、手に持って振ったり舐めたりして形や感触などを存分に楽しんでいます。驚いた表情をしながら喃語で伝えてくれる子もいて、何に驚いたのかな？何を伝えようとしているのかな？と考えながら応えています。子ども達の素直な思



『お外 気持ちがいいね』

いの表現の仕方がとても可愛くて、微笑ましいです。最近では子ども達同士で顔を見合わせて笑ったり、友だちが手を叩いているのを見て一緒にやっていたりしていて、保育者との関わりの中で少しずつ周りにも興味が出てきたのだと感じています。

成長が目に見えて著しいこの一年に関われることを嬉しく思います。今後も、一人ひとりの思いを丁寧に受け止めながら、私たちも一緒に驚いたり喜んだりして過ごしていきたいと思っています。

保護者の方から

「いのぼり掲揚式」

瀬川 詩子（A大仁郎）

桜しべ降る4月26日、岩手県庁舎前に三匹の鯉のぼりが天高く泳ぎ始めました。息子は「掲揚式があるから見に来てね！達増知事も来るよ！」と数日前から楽しみにしており、『鯉のぼり』唱歌を二曲覚えて歌っていました。特に「いらかの波と♪」で始まる曲は七五調のリズムが気に入って、「いらかってな



『フレ・フレ・フレ』

あに? なかぞらつて空の真ん中?」と質問攻め。「屋根より高い♪」の口語表現に慣れた私に、100年以上も前の文語で表現されたこの曲を説明出来るほど力量はありませんでした。日本語の美しさを伝えるチャンス!」と捉えGoogleを多用しながら答えていきました。

当日の朝は意気揚々と登園した息子。県庁へ向かうと、早速Aクラスのみんなが手を繋いで入場。いつもは見慣れない各局のカメラの多さに緊張の面持ちで歩いたり、辺りを見回し家族を探したり:たくさんのドキドキが伝わってきました。式が始まると静かに話を聴き、協力して力いっぱいロープを

引くAさんたち。たくさん練習を重ねたダンスは、どの子も両手をいっぱい広げ、空に躍る鯉に負けじと元氣よく踊っていました。保護者の方々と我が子らの成長を目の当たりにし、感動を共有することが出来た瞬間でした。ダンスの指導等多くのご準備をしてくださった先生方に改めて感謝いたします。

子どもたちには、あの鯉たちのように卒園という竜門を登りきり、逞しく巣立つて欲しいと思います。

新任の先生から

〇いちごクラス担任:阿部 千宗

まだまだ未熟な点も多い私ではございますが、今後も学び続け、子どもたちと共に成長して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

〇看護師:鈴木 優美

こども達を健やかな成長へ導くお手伝いをさせていただきたいです。注意してほしい症状などございましたら、気軽にお声掛けください。よろしく願います。



ふたば会会長から

『オキシトシン』

会長 平野 ルミ子(A慈英)

この言葉を聞くと、出産後に「仕方ないよ。君は悪くない、君の中のオキシトシンのせいなんだから」と夫に慰めてもらったことを思い出します。目の前のか弱き命を守るという重責の中、攻撃的な言動が増えていた私には、自分を大事にできる切り替えの言葉でした。

先日、目を合わせるとオキシトシンの分泌量が増すと聞きました。オキシトシンは、仲間との信頼・協力を促す「愛のホルモン」で、危機に際してのみ、外敵から仲間を守る「勇気のホルモン」の働きをすると報告があります。オキシトシンは攻撃性を強めるのではなく、仲間を守りたい気持ちと一緒に何かをする力が生まれてくる「愛と勇気のホルモン」のようです!

「目を合わせることを」をちょこっとプラスして、日々を過ごしてみます。また、子どもたちの園生活が充実するよう、皆さんのお力添えをいただきながら活動し、楽しい1年にしたいです。どうぞよろしくお願い致します。

編集後記

新年度から2か月が経ち、園庭ではクラスカラーの帽子を被った子ども達がいろいろな遊びを楽しみ、そんな様子をベビーカーに乗った保育部の子ども達がキラキラとした目で遊びを追いかけています。そんな中、数人でしゃがみ込む集団があちこちに見られ、子ども達の目線の先には「アリ」の姿が!アリの動きをじっと見ている子、バケツとシャベルを持ち、捕まえようと一生懸命な子、手で捕まえ我慢げにアピールする子と・アリに関わる子ども達の姿は年齢や個性によっても様々で、すべてが学びに繋がっているのだと思います。スタートしたばかりの今年度。これからの子ども達の伸びゆく成長が楽しみです。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

〒020-0002

盛岡市中央通一六四七

TEL 020-221-3001

理事長 坂本 洋